

第3章 合同委員会の講評と土木研究所・北海道開発土木研究所 の対応

1、 合同委員会の講評

第2章に示した合同委員会での評価結果を踏まえ、平成16年6月16日に同委員会において次期重点プロジェクト研究の研究テーマの事前評価について全体審議を行った。審議の詳細については本書の巻末参考資料に議事録として示すとおりであるが、合同委員会における講評は次のとおりである。

講評

委員のみによる審議を行った後、土木研究所が実施する次期重点プロジェクト研究について、玉井議長より以下のとおり講評がなされた。

- 1：審査の結果、改善意見があるものがあつたが、全体としては重点プロジェクト研究として進めていただきたい。その際には、委員からのコメントを良く読んで、開始時には改善し、見直して進めてもらいたい。
- 2：評価の尺度について、説明を聞く十分な時間もない中で「実施すべきでない」と判定することは難しく、實際上この選択肢はあまり意味がない。
専門家の委員会なので、良いプロジェクトで問題ないとか、社会のニーズから見て評価が低い等を考慮して、連続的な評価である優良可や5段階評価を考えてはどうか。
- 3：この委員会では、大変熱心に評価に取り組んでいるが時間が少ない。十分な議論ができるような形式とするように考えて欲しい。
- 4：今回のコメントを、次回の中間評価や分科会に活かし反映して、継続性があるものとして頂きたい。

2、 土木研究所・北海道開発土木研究所の対応

次期重点プロジェクト研究の研究テーマについては、合同委員会において全体として了承されたので、18年度以降、提案した実施計画に従って鋭意研究を進め、実施計画書に掲げた達成目標の実現を目指していきたい。

上記の講評に対する土木研究所および北海道開発土木研究所の考え方は次の通りである。

【指摘】

：審査の結果、改善意見があるものがあつたが、全体としては重点プロジェクト研究として進めていただきたい。その際には、委員からのコメントを良く読んで、開始時には改善し、見直して進めてもらいたい。

：今回のコメントを、次回の中間評価や分科会に活かし反映して、継続性があるものとして頂きたい。

【対応】

いただいたコメントについては、次期重点プロジェクト研究の個別課題、研究計画に反映するとともに、統合後の委員会・分科会でもご紹介し、統合後の研究評価体制における継続性及び整合性を確保して参りたい。

【指摘】

：評価の尺度について、説明を聞く十分な時間もない中で「実施すべきでない」と判定することは難しく、實際上この選択肢はあまり意味がない。

専門家の委員会なので、良いプロジェクトで問題ないとか、社会のニーズから見て評価が低い等を考慮して、連続的な評価である優良可や5段階評価を考えてはどうか

【対応】

統合後の研究評価については、連続的な評価結果を基に研究実施の可否を判断する際の困難性も考えられるので、今後その点も含めて検討して参りたい。

【指摘】

：この委員会では、大変熱心に評価に取り組んでいるが時間が少ない。十分な議論ができるような形式とするように考えて欲しい。

【対応】

統合に伴い研究評価委員会の評価対象課題が大幅に増えることもあり、委員会と分科会の役割分担をより明確にする等により、重要な事項について委員会で十分な審議を行っていただけるよう対応して参りたい。